

小松高校PTAだより第88号

－「小松町ふるさと祭り」から感じたこと－

校長 村井 浩昭

「小松町ふるさと祭り」が昨年8月24日に小松町駅前通りで行われました。大名行列を5年ぶりに復活させる計画があり、本校生徒中心に、東予高校、丹原高校の生徒も何人か参加して、様々な役割を与えられ、駅前通りを練り歩きました。生徒だけが出演するものだと思っていると、大人の方もおり、本校教員三名も行列に加わっていました。三人三様、近習（きんじゅう）という主君の身辺警護などが任務の武士、毛槍（けやり）という藩の特徴を生かした槍を持つ武士、そして、篤山先生を乗せた籠を先導する武士に扮していました。それぞれにはまり役で生徒も含め、ひとときのタイムスリップを楽しんでいたように見えました。

大名行列に先立ち、吹奏楽部のパレードがあり、祭りのスタートを飾りました。それはそれは大賑わいで、子どもの頃、地元の商店街で行われていた夏祭りが毎年楽しみだったことを思い出し、懐かしい気持ちにさせていただきました。本校生徒の活躍を写真に収めようとパレードの横を行ったり来たりしていると、吉實会長が誘導灯をもってパレードや観客を安全に導いていることに気が付きました。どうも実行委員会の一員として御尽力されていたようです。その後、拠点となる周桑商工会議所小松支所の前で少し話をさせていただいたとき、「あの方もいますよ。」と歴代のPTA会長数名が、実行委員としてそれぞれの係を担っていることを教えていただきました。その上、実行委員長も元PTA役員の方であることがわかりました。

教頭で勤務させていただいているときにも感じていましたが、小松高校のPTAの方々、継続して献身的に学校の為に尽くしてください。ふるさと祭りで歴代の会長が地域の為に汗を流し、祭りを成功に導くために奔走している姿を見て納得いたしました。今年度のPTAの活動目標が「ONE FOR ALL ALL FOR ONE ～一人は全員の為に 全員は一つの目標の為に～」だったことに象徴されるように、学校行事の度に、次に生徒の為にできることは何かを計画され、協力して実行に移していきます。今年度を振り返ると、体育大会での飲料とかき氷販売、小松高祭でのバザー、ウォークラリーでの給水所運営など、生徒の皆さんも思い当たることが多いのではないのでしょうか。

大人になってからでも気が付けばいつのまにか友人関係になっている場合があります。二女が保育園の時、役員の仕事を引き受けました。イベントの時に駐車場係をしたり、運動会のお手伝いをしたりする中で仲良くなったパパ友がいます。その後の子どもたちの進路は発達段階に応じてまちまちでしたが、子どもが成人となった今でもときどき集まってバーベキューをしながら趣味の話をしたり悩み事を打ち明けたりしています。こんなふうに友達ができるのも素敵なことだと実感いたします。

PTA会員の皆様に支えられ、令和6年度の教育活動も素晴らしい成果となって次年度へ引き継がれることを感じております。来年度は、現在の小松高校としては最後の入学生を迎え入れることとなります。PTA活動は新校となっても継続して同じ校地で学ぶということを重視し、協同行う方向で調整しております。今後とも変わらず小松高校の教育活動への御協力と御支援をお願いいたします。また、皆様の活動が新しい絆となって今後どこかで、育み続けることを望んでいます。